

私の後ろにばっかりついて歩かないで。

私だけ早く歳とりそうで嫌なの。

プウテンノツキ

WHEN SLACKERS DREAM OF THE MOON 元本隆史監督作品

2001年/35mm/カラー/ビスタサイズ(1:1.85)/モノラル/71分



プウテンノツキ a Film by Motoki Takashi "Pooten-no-Tsuki" 2001/35mm/color/Vista(1:1.85)/monoral/71min/Japan

2001年/35mm/カラー/ビスタサイズ(1:1.85)/モノラル/71分 製作/銀幕キッド 監督・脚本・編集/元本隆史 撮影/川口良介 撮影補/近藤龍人

照明/向井康介 音楽/大野亨子 整音/古谷正志 制作/津田佳也 提供/PLANET studio+1 配給/ビタース・エンド+スリーピン

出演/吉永秀平、北川千恵、はだ一朗、秋満保子、田丸隆生、市川拓馬、竹田有希、フランキー・仲村、谷口知輝 特別出演/野口貴史



それは月の語る物語

【ブウ】フーテンではなくブータローでもない、引きこもりでもないし、仕事はしていない、ヒモでもなければベツでもない。
【テン】上にあるもの。計れぬもの。目の前にあるようだが手の届かないもの
【ツキ】月。母性的に見え、光をそそぎ、ただ見守るだけの運。

プウテンノツキ
WHEN SLACKER DREAM OF MOON 元木隆史監督作品
2001年/35mmカラー/バスタサイズ(111.85)モノラルカラー

「2回目の屋上のシーンが好きです。」

「遊んでやんねーぞ!!」と二十才過ぎてと言われる主人公は

かなりの駄目具合ですが、だいぶ幸せ者やと思います。

やり切れ無さと暖かさが残る感じが心地よかったです。」

辻村豪文/キセル(ミュージシャン)

「月の海にそびえ立つ、紅(くれない)のブームーン城・・・。」—— STORY-1

「満月」が高くなっていく。それは普段、知っていても気付かないだけで立ち止まった瞬間に吸い込まれる様に見とれてしまう。二人の男がその月に気付いた所からこの物語は始まる。暗い空に、青白く遠い抜け道のごとく光る「満月」に・・・。

「閉じこめられちゃったみたいだね。雨降ってると」—— STORY-2

男の一人は「ブウ」の八太(ヤエタ)。彼女の部屋にころがりこみ、毎日毎日ゴロリと背を丸め「将来」を見上げているだけで、立ち上がろうともしない。そんな八太と恋愛をしてしまったミサキ。働かない八太に呆れながらも、同様の形にする為、現実的にスーパーのレジを打つ日々。

「楽しいねえ、二人とも、毎日さ」—— STORY-3

そして、幼なじみの八太に歩調を合わせる様に、のらくらとヒーローショーでバイトをしながら暮らしているもう一人の男テツロー。三人の「日常」はカラ回りを繰り返す様にただ流れていた。つまづいたものは「生活」。八太は、ミサキに対して莫大な時間をムダに過ごしている焦りや、罪悪感を曖昧に誤魔化し、甘えきった生活をしている。それを突き放せないミサキ。彼女はささやかな八太との生活を守る事に精一杯になり、自分のいらだちを考えないようにしていた。不安を誤魔化して八太に接するミサキ。しかし、気付かない振りの八太は、テツローの後にくっついてはしゃぎ回る。

「飛べる? あたし飛べるよ、あの柵くらい」—— STORY-4

自分の将来を見上げた時の限界を感じているテツローは言う。「みんなヒーローになれる訳ねーんだからさ」笑っていればいい。そんな時間が「なんとなく」八太達を包んでいく。生活を大切に思い懸命に働くバカらしさと疎外感を感じるミサキは、いつもの様にしゃぐ二人に言い放つ「ガキくさい」突き付けられた感情に反発する八太。が、ミサキ、テツローはそれぞれが想いを馳せ「上」をきちんと見上げ始める。とっくに気付いていた現実には八太は・・・。

HPアドレス: <http://www.takenaka-co.co.jp/Pooten/>

この作品「プウテンノツキ」を創った元木君とは、学部・大学院を通じて6年間、つき合った仲である。映画好きの好青年で、映画制作に対する思い入れは充分な男だが、どうやらこの作品の主人公同様「甘い」のきつい男でもあった。「でもあった」と過去形にしたのは、どうやら元木君、この作品を制作するプロセスの中で、「甘い」が一体どんなものか、どうやら自分なりに掴めたらしく、以来いささかの変貌を見せているからである。この時機(人生の)、とことん己を注ぎ込んで映画を一本撮るということは、並みのエネルギーで出来ることではない。悪戦苦闘、もがき苦しんでいたが、私は冷たく見つめていた。そんな時機が、過去、自分にもあったから・・・。

作品の評価は、ご覧いただく皆様がくださればそれで良いこと。ただ、彼がこの時機、この作品で己を正視し、この作品に今の己の全てを叩き込んだことだけは、確かである。」

中島貞夫(映画監督)

CAST ●吉永秀平(須藤八太) ●北川千恵(北川ミサキ) ●はだ一朗(巻島テツロー) ●秋満保子(須藤頼子) ●田丸隆生(ヒーローショー支配人) ●市川拓馬(小村の孫) ●竹田有希(幼少のミサキ) ●フランキー・仲村(サラリーマン) ●谷口知暉(サラリーマン) ●野口貴史(保護司・小村)

STAFF 監督・脚本・編集元木隆史 撮影川口良介 照明向井康介 撮影補近藤龍人 音楽大野亨子 音楽MIX・高山英樹 監修古谷正志 効果・河本敬 助監督山田晃、宮原修輔 衣装・メイク日原美緒子 セット美術安井聡子、林陽子 録音篠原良一郎 ステールタナカ ヒデユキ 特殊メイク日原 剛、川口信之、浅見哲也 製作「銀幕キッド」「プウテンノツキ」上映推進委員会 提供PLANET studio+1 配給ビース・エンド・スリピン

すぐに働ける・日払い可能・友達がいっぱいできる。エリアスタッフ派遣の

大邦舎

今すぐアクセス→TEL:06・6543・1661

大阪市西区北堀江1-2-27・6F FAX:06・6543・1663 トータルプラン 株式会社 大邦舎

全国縦断公開!!!!

2002年3/9(土)~22(金)レイトショー公開 連日PM9:10~

前売:1300円(近日発売!) 当日一般:1500円 学生:1400円 ★日曜休映

前売:2作品共通券1800円

※チケットびあ 共通◎コード407389

(「どんてん生活」+「東京ハレンチ天国・さよならのブルース」+「悲しくなるほど不実な夜空」+「プウテンノツキ」うち2作品/近日発売!)

神戸:神戸アートビレッジ・センター2002年来春~以降連続上映 名古屋:2002年来春公開予定

テアトル梅田
梅田ロフトB1
06-6359-1080